

三〇	七、〇	二七	一一〇	一〇〇	三〇	八〇,〇〇〇	全
六〇	一一、三	三、八	七五〇	六〇〇 ^泥	四七	三三〇,〇〇〇	全
六〇	一一、八	五〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三四	二八八,〇〇〇	全土砂船容 量一〇〇〇噸
三五	八、〇	三、〇	三五〇	三〇〇	三〇	一三〇,〇〇〇	砂船容量 二五〇噸
五三	一〇、六	四、六	六〇〇	六〇〇	四五	三〇〇,〇〇〇	砂船容量 六〇〇噸

以上價格ハ我國ニ到着ノモノト知ルヘシ

摺揚式浚渫機

ハ第二卷第八章ニ於テ述ヘシ如ク他ノ浚渫機ノ接近シ得ヘカラサル狹隘ナル個所ニ於テ浚渫スルニ最モ能ク適シ殊ニ船渠浚渫工事ノ如キニ在リテハ殆ント缺クヘカラサルモノトス然レモ海底ノ地質堅硬ニシテ摺器ノ透入充分ナラサル場合ニハ其效力著シク減退シ殆ント其用ヲ爲サ、ルニ至ルコトアリ

種別

摺器ニハ單鏈雙鏈ノ二種アリト雖モ使用上雙鏈ノ優レルニ如カス乃チ一條ハ摺器開閉ノ用ヲ爲シ他ノ一條ハ卷揚ニ用ユルモノアリ

左ニブリストマン會社製浚渫機ノ大小及ヒ切程等ヲ掲クヘシ

船 体		摺器ノ容 量	一時間ノ 浚渫力	突梁ノ半 徑	價 格
長	巾 深				
一四、〇 ^米	四五	泥 〇、五 ^噸	二五 ^噸	五、〇 ^米	九、八〇〇 ^圓
一五、〇	六、〇 一、六	一、〇	五〇	五、五	一二、五〇〇

一九〇	六、六	二、〇	二、〇	八〇	五、五	一六、〇〇〇
-----	-----	-----	-----	----	-----	--------

本表ハ單ニ機械一個ヲ木製ノ臺船ニ取付ケタルモノニ係ハリ砂
 船及ヒ自動ノ裝置ヲ施サス其價格ハ我邦ニ於テ艤裝セシメタル
 モノ、概算ニ過キササルモノナリ

瀝罐ヲ機關ヨリ分離スルトキハ瀝罐ヲシテ船体後方ノ對重ト爲
 ニヲ得ヘシト雖モ使用上ノ便及ヒ突梁ノ甚シク輪道ヲ壓スルヲ
 防ク上ニ於テハ其ノ分離セサルモノニ及ハス

ブリストマン浚渫器ニシテ砂船ヲ具ヘ自動ノ裝置ヲ爲セルモ
 ノ亦タ尠ナカラス其大形ノモノニ至リテハ船体鐵製ニシテ長六
 十八米巾十二米深五米ヲ有シ擲揚器五臺ヲ具ヘ土砂船ハ能ク一
 千噸ヲ容ルヘク其浚渫力一時間九百噸ニ達スルモノアリ

吸揚式浚渫機

ニ在リテハ回轉スヘキ部分ノ重量小ナルニ依
 リ原動力ヲ節スルコト亦タ尠ナカラスト雖モ多量ノ水ヲ土砂ト
 共ニ吸揚ケサルヲ得サルハ其欠點タリ

唧筒ハ初メ直働式ノモノヲ使用セリト雖モ輓近專ラ回轉唧筒ヲ
 使用スルニ至レリ

吸揚式ハ砂ヲ浚渫スルニ於テハ他各種ノ機械ニ比シ其効用最モ
 著シト雖モ其實力ノ多キハ泥ヲ以テ最トス

普通ノ吸揚機ハ稍、硬質ノ砂地ニ在リテハ吸揚水量ハ砂ト殆ン
 ト相半シ更ニ粘土ノ混入シ在ル場合ニハ水六分土砂四分トナリ
 純然タル粘土ニ至リテハ水九分土砂一分ノ割合ヲ爲スカ故ニ其
 吸揚力ハ浚渫スヘキ土砂量ノ少クモ二倍以上ヲ有セサルヘカラ
 ス

功力

シユミツト吸揚機

シユミツト專賣吸揚機ハ此點ニ於ケル一大改良ニシテ殆ント土質ノ如何ニ論ナク吸管ノ先ニ裝置セル破弛器ニヨリ海底ヲ攪亂シテ吸揚ヲ容易ナラシメ又吸揚タル土砂ハ砂船若ハ土砂船ニ移シ又ハ更ニ水壓ニ依リテ著大ノ流速ヲ土砂送致管中ニ生セシメ浚渫物ヲシテ直ニ附近ノ地ニ輸送セシムルノ構造ヲ爲セルモノナリ

吸揚機ノ長所

吸揚機ノ一大長所ト爲スハ風浪ニ妨ケラレテ他種機械ノ操業シ得サル場合ニ於テモ尙ホ能ク之ヲ繼續スルコトヲ得ルニ在リ現ニマース河口沖ニ於ケル浚渫工事ノ如キハ波浪ノ爲メ汲揚式ノ機械ヲ使用スルコト能ハサル場合ニ於テ吸揚機ハ高サ壹米ノ波浪ヲ凌キテ能ク其効力ヲ全フシタリ又リバプール沖ニ於テ使用セシ時ノ如キハ高サ二米ノ波浪ニ際シテ能ク操業スルコト

ヲ得タリト云フ

吸揚機ヲ以テ砂利玉石等ヲ浚渫スル場合ニ於テハ吸管及ヒ唧筒ノ摩滅スルコトノ多キハ免レサル所ナリ

左ニ自動吸揚浚渫機ノ大ナルモノ二三ノ例ヲ掲ク

船 体		時間ノ浚渫力	土砂船作工水深	價格(英 國)	摘 要
長	巾				
四三 <small>米</small>	八、二 <small>米</small>	四、〇 <small>米</small>	六〇〇 <small>噸</small>	六〇〇 <small>噸</small>	一〇 <small>米</small>
四六	九、〇	三、六	一、〇〇〇	五〇〇	一三
九六	一四、〇	六二	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一六

吃水五米吸管二個
徑〇、九米

速度九哩半

唧筒羽ノ徑二、九米
回轉毎分百二十回

大サ 價格

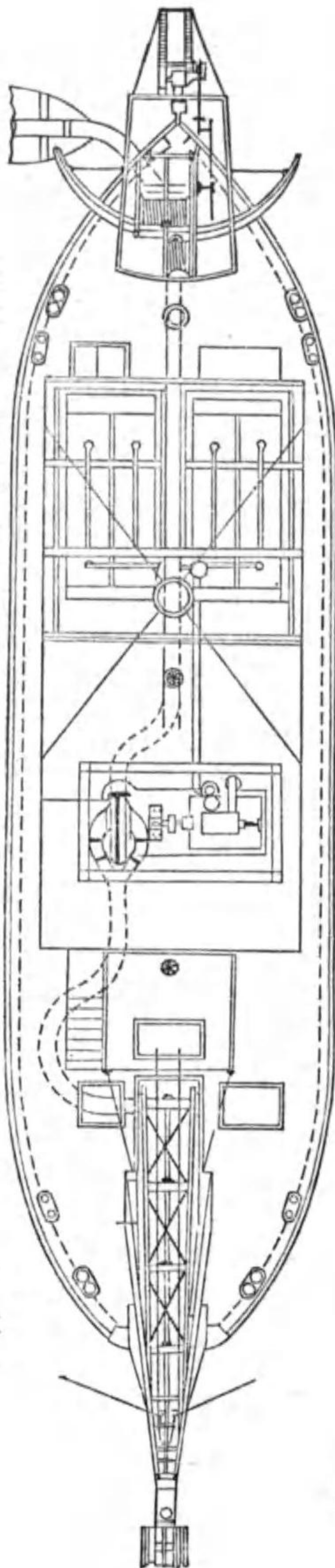
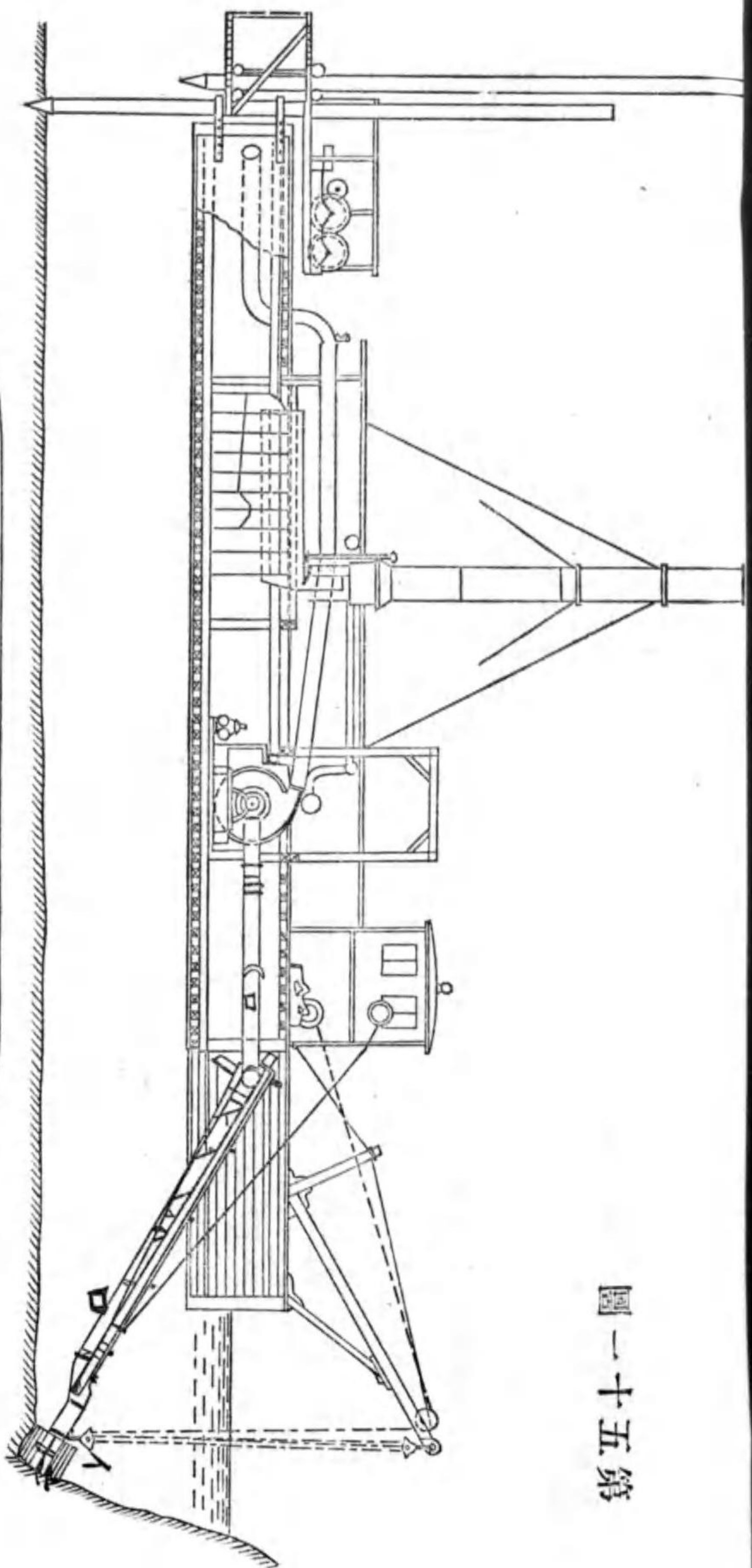
シユミツト專賣浚渫機

シユミツト專賣浚渫器ニシテ土砂送致管ヲ具フルモノハ通常不動ニシテ木製ノ臺船ニ機械ヲ裝置セルモノ多シ第五十一圖ハ乃チ此種ニ屬シ破弛器(イ)ノ回轉ニ依リ海底ヲ攪亂シ吸管(ロ)ヲ通過

シテ唧筒ニ入ルヤ更ニ送致管ニ押入セラレ所定ノ地ニ輸送スル
ノ構造トス船体ハ舳ヲ中真トシテ回旋セシムルニ依リ浚渫ハ常
ニ扇形ニ施工シツ、進行スルモノナリ又タ船尾ノ附近ニ於テ海
底ニ透入スル二個ノ柱ヲ備ヘ交番ニ一ヲ引キ揚テ之字形ニ前行
セシムルモノアリ

本機ノ一大要點ハ送致管ニ於テ水流ニ著大ノ速度ヲ生スルニ在
リトス是レ砂礫ヲシテ管中ニ沈澱セシメサルカ爲ナリ而シテ柔
軟ナル個所ノ浚渫ニ在リテハ固ヨリ流速ノ甚シク大ナルノ必要
ナシト雖モ通常毎秒四米以上ノ速度ヲ要スルモノ、如シ
該機ノ効力ハ地質及ヒ輸送スヘキ距離吐口ノ高サ等ニ依リ著シ
キ差ヲ呈スルモノニシテ殊ニ砂ハ管底ニ沈澱シ易ク長距離ノ輸
送ニ堪ヘサルヲ以テ一千米以上ノ管ニ在リテハ屢々浚渫ヲ中止

圖一十五第



功程

シ單ニ水ノミヲ送致シテ管内ヲ洗滌スルノ必要アリトス
 泥ハ管ノ延長五百米ニ付浚渫力ニ於テ凡ソ一割二分ヲ減シ砂ニ
 在リテハ更ニ其二倍餘ヲ減スルニ至ル乃チ管ノ長サ千五百米ナ
 ルキハ五百米内外ノ長サニ比シ地質ニ依リ三割乃至六割ヲ減ス
 ルモノナリ而シテ土砂ヲ水面ヨリ尙ホ高處ニ排出セシムル場合
 ニハ更ニ甚シキ減量ヲ呈スヘシ

此種浚渫機ノ最大ナルモノハ現時ミスシッピー河改良工事ニ使用
 スルモノ、一ニシテ左ニ大小二三ノ例ト共ニ其力量並ニ價格ヲ
 記載スヘシ

シユミツ
ト機價格

泥	時間ノ 浚渫力	土砂送 致管長	船 体		價 格	摘 要
			長	巾 深		
泥 三〇	二〇〇	二〇〇	五	二、〇	一七、〇〇〇	全 (英國)
			四	一、〇	八、〇〇〇	實馬力四〇〇 船体木製 (濠州)
			四	二、四	一七、〇〇〇	木製川船自動 實馬力四二五 (米國)
			四	二、三	二二、〇〇〇	鐵製川船自動 實馬力八〇〇 (米國)
			五	二、二	四三、〇〇〇	全 實馬力 二〇〇上 (米國)
					五、〇〇〇	船ヲ除ク (英國)

100	100				17,000	全 (英國)
500	300	45	15,2	2,0	8,000	實馬力四〇〇 船体木製 (濠州)
砂 700	200	42	11,0	2,4	17,000	木製川船自動 實馬力四二五 (米國)
全 1,000	200	44	12,0	2,3	22,000	鐵製川船自動 實馬力八〇〇 (米國)
全 2,500	300	53	22,0	2,2	43,000	全 實馬力 200上 (米國)

混成浚渫機

海底ノ地質各所異ナルノ地ニ在リテ同一ノ浚

渫船ヲ用ヒントスル場合ニハ前記各種ノ器械中其必要ナルモノ
 ヲ一船ニ併置スルモノアリ乃チ吸揚式及汲揚式ヲ具フルモノ又
 ハ汲揚式ニ攪揚式ヲ加フルモノ等其類一ニシテ足ラス
 以上ハ浚渫機ノ構造ニ付其要點ヲ記述セシモノニシテ日進改良
 ノ最新式ノ機械ニ至リテハ現物ニ就キ調査ヲ遂ケ又時々散見ス

ル各種工學雜誌ノ記載ニ據ルヘシ

碎岩機

岩盤ヨリ成ル海底ノ掘浚ハ其質最モ軟弱ナルトキハ汲揚式浚渫機ニ依リテ掘鑿スルコトヲ得ヘク其硬質ナルモノニ至リテハ到底機械力ノ能ク功ヲ奏スヘキモノニアラス故ニ此場合ニ於テハ豫メ海底ヲ鑽孔シダイナマイトヲ以テ之ヲ破碎スルモノトス而シテ其中間ニ處シテ浚渫機ニモ據ル能ハス又爆裂モ其功ヲ示ササルモノニ至リテハ碎岩機ヲ使用スルノ利アルヘシ

ロープニツツ碎岩機ハ重量四噸乃至二十噸ノ鐵杆ヲ墜下シテ岩盤ヲ破碎スル装置ニシテ杆頭ニハ鋼鑿ヲ付シ鐵杆ノ數ニヨリ單双複ノ三種トス

鐵杆ノ重量ハ水深及岩質ニヨリ之ヲ定ムルモノニシテ水深一米ニ付キ凡ソ一噸ヲ加フルモノトス落差ハ通常二米乃至三米トス現時橫濱港ニ於テ海底ノ軟盤(土炭岩)ヲ破碎スルニ使用セルモノハ單杆ニシテ其重量十噸ヲ有シ一日ノ功程十五立坪(地量)内外ニ達セリ其價格台船共ニ約五万圓トス

碎岩機ニヨリ破碎セル岩片ハ概シテ小ナルヲ以テ爆裂セルモノヨリ浚渫スルヲ容易ナルノ利アリ

杭打機

人力杭打機 杭打ノ難易ハ專ラ地質ノ如何ニ在リテ比較的軟弱ナル地層ノ下ニ硬層ノ存スル場合又ハ載荷力ノ多キヲ要セサル杭打工事ニ在リテハ蝟若ハ眞棒等ノ器具ヲ以テ足レリトス眞

棒ハ通常木製ニシテ重量二百乃至六百斤ヲ常トシ拾人乃至四拾人掛ニシテ墜落二米内外ナリトス其鍍製ノモノニ至リテハ鍍鍍ノ中心ニ鍍杆ヲ貫通シテ之レヲ杭頭ニ建テ以テ鍍ノ昇降ヲ導クノ用トナス此等ノ杭打機ハ總テ足代ヲ建設シテ作業スルモノナリ

人力機

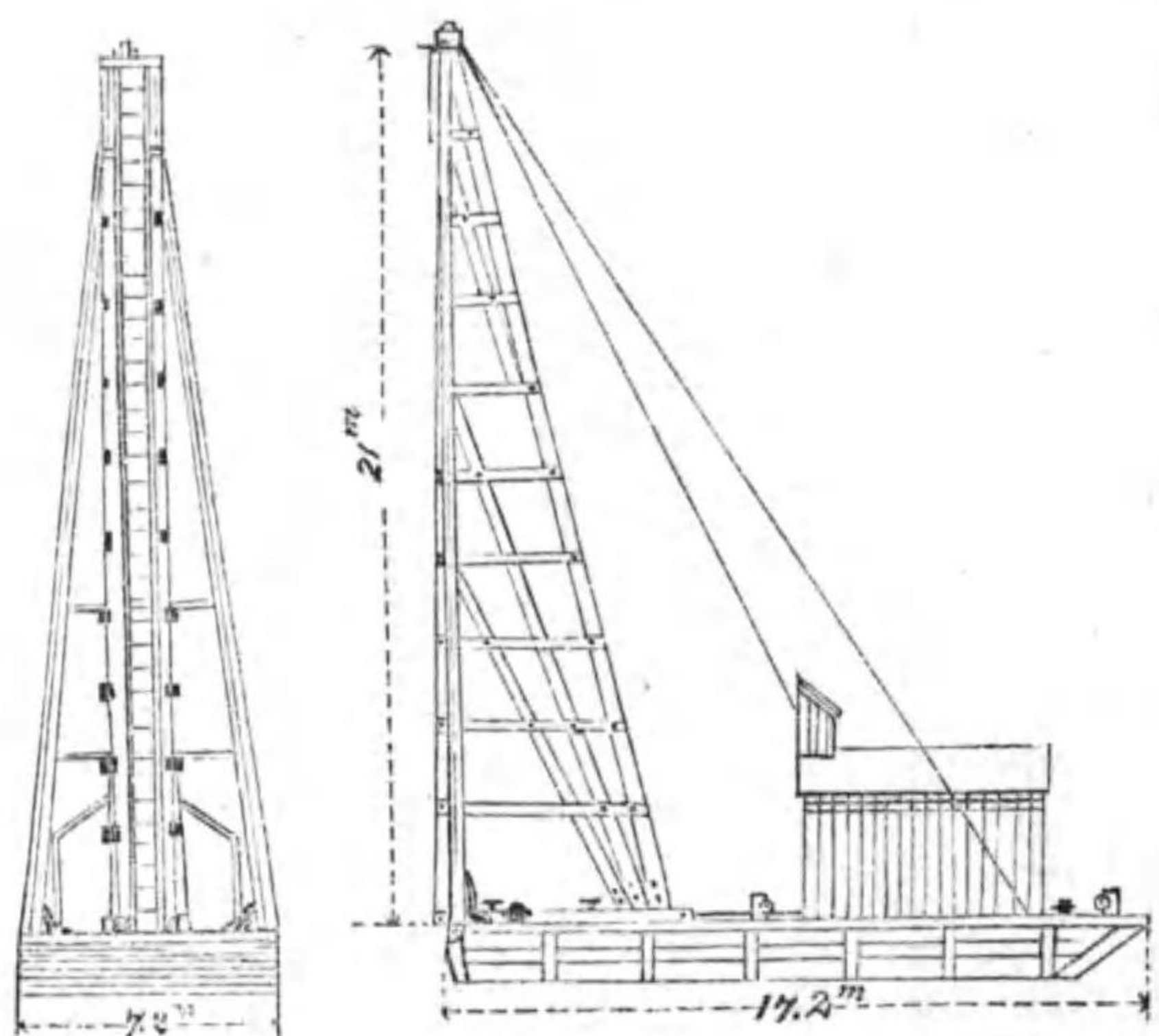
人力杭打機ニシテ僅カニ四五人ヲ使役シ小形ノ卷揚器ヲ用ヒテ半噸乃至一噸ノ鍍鍍ヲ高サ三米乃至六米ニ墜落セシムルモノ亦尠ナカラス其構造稍第五十二圖ニ示セルモノニ近似シ其效用前記ノ各種ニ優ルコト多シト雖凡管其運用ノ極メテ遲緩ナルヲ以テ大工事ニ使用スルニ適セス

蒸氣杭打機

ハ卷揚及ヒ直働ノ二種アリテ卷揚機ハ前記人力

卷揚機

第五十二圖



ルヲ以テ特ニ之ヲ掲ケタリ乃チ船体ノ長サ拾七米巾七、二米深サ

杭打機ノ稍、大ナルモノニ蒸氣機關ヲ具ヘ卷揚機ヲ運轉セシムルモノニシテ其鍍鍍ノ重量ハ通常一噸内外墜落ノ高サ三米以上トス第五十二圖ハ此種ノ稍、大ナルモノニシテ曾テ新約克港ニ於テリ用セシモノナリ其構造宜シキニ適ヒ摸範ト爲スニ足

一、五米鍊錘ノ重量一噸半卷揚器ハ公稱馬力二拾五ノ機關ニ依リテ運轉シ頗ル強力ナルモノナリ
 前記各種ノ杭打機ハ何レモ工事ノ大小ニ應シテ使用スルコトヲ得ヘシト雖モ其作用充分敏捷ナラスシテ鍊錘ノ墜落ニ毎回多キハ一分餘ヲ費スコトアルニ至ル是ヲ以テ砂ノ如キハ此間ニ於テ既ニ杭ノ周圍ニ固定シ其透入ニ抗スルコトアリ故ニ大工事殊ニ砂地ニ在リテハ初費ノ大ナルニ關ハラス直働杭打機ヲ使用スルコト尠ナカラス

直働機ハナスミス式ヲ始メトシ其種類一ニシテ足ラスト雖モ皆ナ大同小異ニシテ普通鐵工場ニ設備セル單働蒸氣鐵錘ニ類似シ直接ニ瀉力ニ依リテ鐵錘ヲ押上ケ墜落セシムルノ構造ニシテ其全体ヲ臺上ニ於テ適當ノ高サニ裝置セル柱ヨリ吊リ鐵錘ヲ杭頭

ニ觸接セシメ杭ノ透入ニ伴ヒ漸次吊リ下スモノトス
 鐵錘ノ重量ハ五百乃至二千五百砵トシ瀉筒ノ徑二十四乃至二十八糎衝程二十五乃至九十糎打數毎分二百乃至七十ニ達シ前記ノ器械ニ比スルトキハ墜落ノ高サニ代フルニ其數ヲ以テスルニ在リ本機ヲ使用スルノ最モ利便ナルハ多數ノ杭ノ各所ニ散在セスシテ能ク近接ノ個所ニ集中スルノ場合ニシテ殊ニ砂質ノ地層ニ在リトス
 左ニ實例ニ基キ前記各種ノ器械ニ關シ其功程及ヒ比較等ノ概要ヲ示スヘシ

器械別	錘ノ重量	落差	購入費	一日ノ功程 (杭ノ徑三拾糎内外)	工費 (打込一 米ニ付)	地質
眞棒 掛リ 三拾人	五〇〇	一・五 ^米		四 ^米	三、〇五〇 ^圓	砂利及硬土

全 掛り 四拾人	六〇〇	一、五		三	一六、五	二、二五〇	砂
卷揚機 掛り 四人	七〇〇	三、八	三三〇 _圓	一	四、二	一、五二〇	砂利及硬粘土
全 掛り 九人	七五〇	四、〇	四五〇	二	七、〇	一、八五〇	砂利及玉石
蒸氣卷揚機	一〇〇〇	三、〇	四、三〇〇	八	九六、〇	〇、五二〇	粘土
全	一〇〇〇	一、四	三、九〇〇	九	四六、八	〇、五六〇	砂
ナスミス 蒸氣直働機	一四〇〇		一五、〇〇〇	一八	一三五、〇	〇、二八	砂及粘土

本表購入費中ニハ水上ノ使用ニ要スル台船等ノ装置ハ含有セサルモノトス

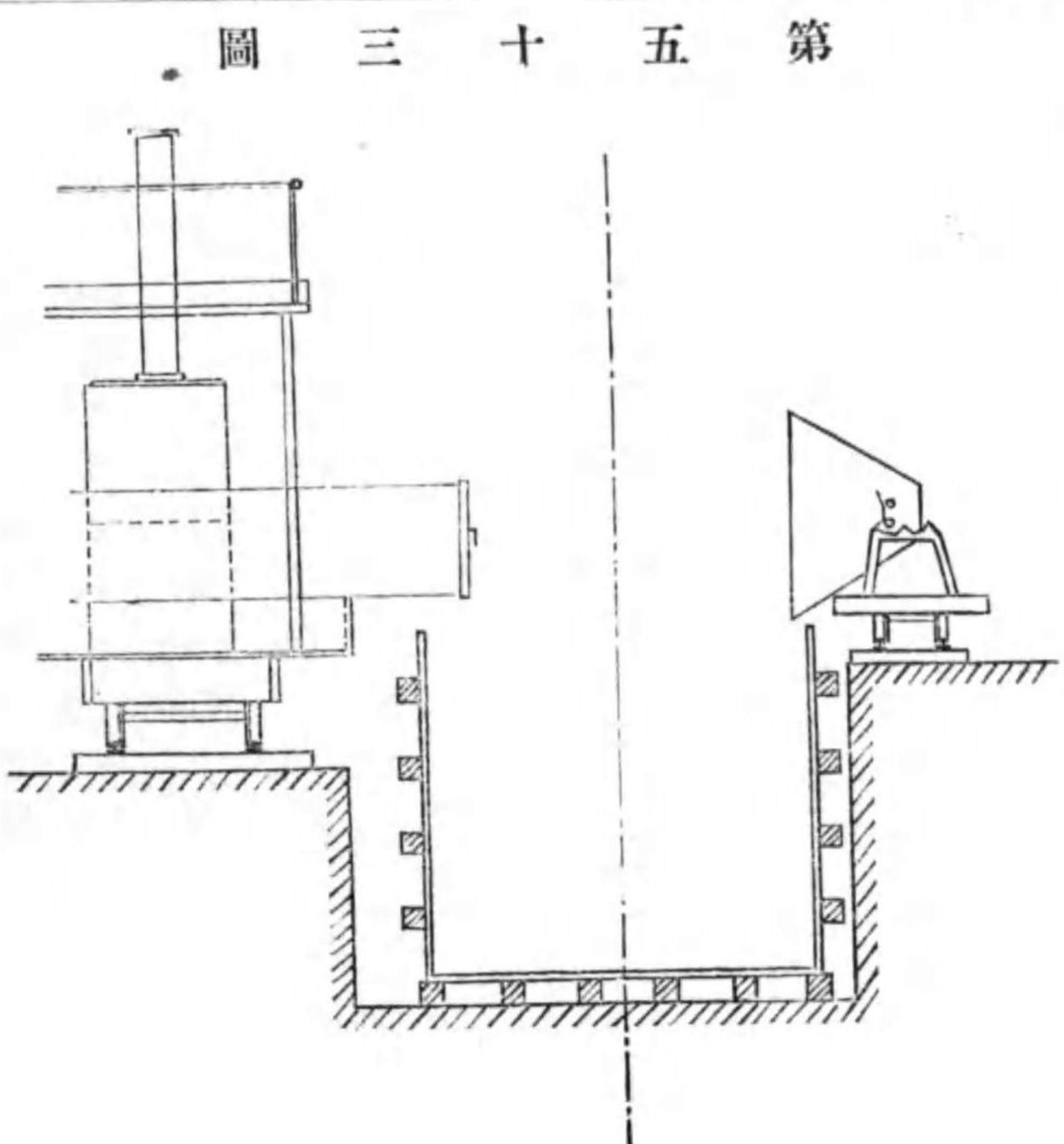
工場

茲ニ工場ト稱スルモノハ築港工事施設ノ爲メニ設置スルモノニ

塊製造場

シテ固ヨリ假設ノモノナリト雖モ其設計ノ如何ハ施工上ノ便否ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ左ニ其要領ヲ述フヘシ
築港工事は在リテ工場ノ最モ廣キヲ要スルハ混凝土塊ノ製造ニ使用スル地積ニシテ其他ハ皆僅少ニシテ足レリトス
塊製造場ノ面積ハ一ヶ年若ハ一日ニ製造スヘキ塊ノ數量及ヒ各個ノ大サニ依リ定マルモノニシテ毎塊其周圍ニ於テ作業ニ便ナラシムヘキ餘地ヲ存シ且ツ十五日乃至二十日ニシテ堆積場ニ運搬シ得ヘキ目的ヲ以テ用積ヲ計算スヘシ而シテ其配置ノ如キハ専ラ原料ノ運搬及ヒ塊搬出ノ便否ヲ稽ヘ之ヲ設定ヒサルヘカラス

積疊スヘキ塊ハ其製造中最モ強固ナル土臺ノ上ニ置カサルヘカラサルヲ以テ(卷ノ一第(五章參照)粗石ヲ以テ地固メヲ爲シ切石若ハ混凝土



ヲ以テ其基礎
ヲ造ルノ必要
アリ
塊ノ位置ハ第
五十三圖ニ示
ス如ク混凝土
ヲシテ自然ニ
模型ニ入レシ
ムル爲メ充分
之ヲ低下スル
ヲ便トスト雖
凡此構造タル

第五十三圖

左右ニ堅牢ナル土留ヲ要シ鉅多ノ工費ト地積トヲ要スルノ不利
アルヲ以テ一体ニ平地ト爲ス場合多シ殊ニ人力ノミニ依リテ混
凝土ヲ製スル場合ニ在リテハ原料ノ運搬ニ多少ノ不便ヲ生スル
ニ止マリ其費用ニ至リテハ大差ナカルヘシ又器械力ニ依ラント
欲セハ全圖ニ示ス如キ軌道運搬器ヲ以テ混凝土ヲ模型ニ填充ス
ルノ方法ヲ採ルモ可ナリ

塊堆積場ハ一方ニ向テハ塊製造場ニ接續シ又塊使用ノ方面ニ對
シテハ搬出ノ便ヲ具備セサルヘカラス其面積ハ堆積ノ日數ヲ見
積リ小形ノ塊ニ在リテハ二三層ヲ積重シ塊ノ全數ニ對シ計算ス
ヘシ

混凝土ノ製造ハ模型ニ伴フテ終始其場所ヲ移轉セシムヘキモノ
ト一定ノ個所ニ於テ之ヲ製シ模型ニ運搬セシムヘキモノトノ兩

混凝土製
造ヶ所

法アリテ前者ハ製煉シテ直ニ模型ニ投スルコトヲ得ルニ依リ不
時ノ支障ノ爲メ施業ニ停滯ヲ生スルトキハ直ニ煉方ヲ中止スル
コトヲ得ルヲ以テ混凝土ノ剩餘ヲ生セサルノミナラス水量其宜
シキヲ得ルノ利アリト雖モセメント、砂、碎石、水等各種ノ原料ヲ各
々別ニ運搬スルノ繁雜及ヒ途中ノ耗失ヲ免レス之ニ反シ後者ニ
在リテハ製煉ノ個所ヲ原料置場ノ中央ニトスルニ於テハ原料ノ
運搬上大ニ簡便ヲ得且ツ耗失ヲ防クコト尠ナカラサルノミナラ
ス亦タ多少風雨ニ拘ハラヌ施業シ得ヘシト雖モ搬出ノ途中ニ於
テ混凝土ノ成分ニ多少ノ分離ヲ生シ又模型ニ詰込ムニ當リテ停
滯スルコトアルトキハ使用ニ先チ凝結ヲ始ムルノ憂ナシトセス
之ヲ要スルニ若シ熟練ナル工夫ヲ使役シ監督ヲ嚴ニシテ順序正
シク施業スルニ於テハ一定ノ場所ニ於テ製煉ヲ施スコトノ利且

ツ便ナルニ如カスト雖モ塊ノ高サト地盤高低ノ關係ニ依リテハ
實行シ難キ場合ナキニ在ラス兩者ノ得失殆ント相半ハスルモノ
ト云フヘシ

原料置場

原料置場ハ一方ニハ水運又ハ陸路ニ依リテ輸送スル材料ノ積卸
ニ便ニシ乃チ物揚場ニ近接シ若ハ道路鐵道ニ接續セシメ他方ニ
向テハ消費ノ爲メ搬出ヲ便ニセシメサル可カラヌ
一時ニ場内ニ堆積セシムヘキ材量ノ數ハ日々ノ消費高及ヒ其採
集地ノ遠近運搬ノ便否ニ依リテ差アリ一定ノ率ナシト雖モ常ニ
少ナカラサル地積ヲ要スルモノニシテ砂、砂利、粗石等ハ一立坪ニ
付凡ソ面積二坪ヲ要シ殊ニ砂ノ如キハ別ニ吹貫小屋ヲ建設シテ
乾燥セルモノヲ取入レ貯藏スルノ必要アリ
セメント倉庫ハ床ヲ高フシ專ラ濕氣ヲ防遏スルノ方法ヲ講セサ

ルヘカラス

用材ノ多クハ水運ニ依リ輸送スルモノナレハ船入場及ヒ物揚場等ノ設備ナカルヘカラス而シテセメント倉庫、砂、砂利、石材置場ハ各其一端ヲ之ニ接近セシムルヲ以テ得策トス

船入場

用水ハ既設ノ水道ノアル場合ニハ之ヨリ引水スルコトヲ得ヘシト雖モ然ラサルハ水源ヲ得テ水管ヲ布設シ貯水桶ヲ建設シ給水ノ便ヲ計ラサル可ラス

用水

諸器具ノ修理ヲ施スヘキ鍛冶工場ノ如キ又暴風高浪等ニ際シテ生スル不慮ノ事變ニ備フル爲メ監督者及ヒ人夫數名ヲ工場内ニ定住セシムルニ足ルヘキ家屋ノ設ナカルヘカラス而シテ鍛冶工場ノ如キハ成ルヘク他ノ建造物ト隔離スルヲ要ス其他物置事務所用材試験所及ヒ一般人夫ノ休息所、見張所等亦タ缺クヘカラス

工場雜件

ル建物トス而シテ前記諸種ノ建物ノ安全ヲ計ル爲メ完全ナル防火ノ設備又ナカル可ラス

第五章 港政

商港ニ關スル行政制度ハ各國之ヲ異ニシ其多クハ未タ一定ノ法律ヲ設ケス港灣ノ種別地區及費用等ハ從來ノ慣例ニ基キ個々之ヲ定メ港灣取締ノ如キモ適宜設ル所ノ規則ニ依ルモノニシテ港灣ニ關スル國法ヲ制定セルモノ極メテ尠ナシ

港法ノ要項

我國ニ在リテハ未ダ港法ナク他日之ヲ制定スルニ至ラハ其商港ニ關スルモノハ左ノ要項ヲ包括セサル可ラス

- 一 商港ノ定義
- 一 商港地域

- 一 商港ノ附屬物
- 一 商港ノ等別
- 一 商港ノ管理
- 一 修築及維持費ノ負担
- 一 行政ノ監督
- 一 港則
- 一 港稅

以上數項中特ニ注目スヘキモノハ第五項以下ニシテ左ニ歐米二三ノ國ニ於ケル實況ヲ摘記シテ其一斑ヲ示スモノトス

管理及費用

佛國

佛國ニ在リテハ商港ノ築設並ニ維持ハ國家事業トシテ工部省ノ

所轄ニ屬シ航路、阜頭、外港、内港及ヒ船渠、水閘、繫船岸、修船渠等ノ如キ重要ナルモノニ限リ直接經營シ物貨ノ運搬積卸及ヒ撰別貯藏等ニ要スル諸般ノ設備ニ至リテハ之ヲ個人會社等ノ事業ニ委セリ

左ニ千八百十四年ヨリ全九十三年ニ至ル間ニ重ナル佛國諸港ノ修築ニ要セル臨時費ヲ掲ケ以テ該事業ニ對シ國家經濟上費用ノ支出ニ吝ナラサルヲ示スニ足ルモノトス

港名

工費(圓) (二五法)

ヅンケアク	四〇、八四〇、〇〇〇
グラープリーン	二、〇八〇、〇〇〇
カレー	二二、三六〇、〇〇〇
ブウロース	一六、四〇〇、〇〇〇

ル、ツレポール	二、五六〇、〇〇〇
チトプ	一四、六四〇、〇〇〇
サンヴァレリー	一、八〇〇、〇〇〇
フェカン	七、一二〇、〇〇〇
ル、ハーブル	六〇、二八〇、〇〇〇
ルアン	九、二〇〇、〇〇〇
ランフルア	六、四四〇、〇〇〇
ツルービル	二、三二〇、〇〇〇
カアン	四、二八〇、〇〇〇
シャープール	三、二八〇、〇〇〇
グランビユ	二、九六〇、〇〇〇
サンマロー	一一、八四〇、〇〇〇

ブレスト	八、二〇〇、〇〇〇
レドン	二、四八〇、〇〇〇
サシナゼール	一五、二八〇、〇〇〇
ナント	二、二四〇、〇〇〇
サーブルドロヌ	三、八八〇、〇〇〇
マラン	一、九二〇、〇〇〇
ラ、パリス	八、九六〇、〇〇〇
ラ、ロシエユ	二、六四〇、〇〇〇
ロウシユフォル	五、八〇〇、〇〇〇
ポルドウ	二〇、〇八〇、〇〇〇
ルヴェルドン	四、六四〇、〇〇〇
バヨウヌ	三、七二〇、〇〇〇

サンジャンルユ	四、五二〇、〇〇〇
セツト	一三、〇四〇、〇〇〇
プウ	一、九二〇、〇〇〇
マルセーユ	三六、八〇〇、〇〇〇
ニース	一、八〇〇、〇〇〇
バスチャ	二、八〇〇、〇〇〇

臨時費ノ總額ハ約三億三千八百萬圓ニ達シ其内政府ノ支出ニ係
 ハルモノハ二億七千三百萬圓ニシテ殘餘ハ地方ノ負担ニ屬セリ
 港灣ノ維持ニ要セル全年間ノ經常費ハ一億七百萬圓ニ達セリ爾
 來佛國諸港ノ重ナルモノ殊ニカレレ、ツングアク、ハーブルマルセ
 ーユ等ハ日進ノ改良ヲ施シ其カ爲メ支出セル工費亦タ尠ナカラ
 ス其金額ニ至リテハ未タ詳ニスルコトヲ得ス

工費ノ財源

商港ノ維持ニ要スル費用ハ必スシモ國庫ノ負擔ノミニ依ラスシ
 テ營業上特ニ港灣ニ關係ヲ有スルモノ及ヒ市州若ハ商業會議所
 等ノ寄附金ヲ以テ其一部ニ充ツルコトアリ而シテ近年大ニ其額
 ヲ増加シ全額ノ半以上ニ達スルコト亦タ鮮ナカラサルニ至レリ
 而シテ市及ヒ州ハ此寄附金ニ充ツル爲メ之ヲ一般歳出ノ豫算ニ
 編入シ商業會議所ハ船舶ノ噸稅及ヒ物貨乘客等ニ課シタル稅金
 ノ内ヲ以テ充ツルモノトス

税金ノ用途

前記商業會議所ノ徵收スル税金ハ工事費若クハ其支辨ノ爲メ政
 府ノ許可ヲ得タル公債元利金ノ償却以外ニ使用ルスコトヲ得サ
 ルモノトス

鐵道

繫船岸ニ於ケル鐵道ハ港灣ニ連絡スル鐵道會社ニ於テ布設スル
 ヲ常トスト雖モ亦タマルセーユ港及ヒラ、ロウシエーユ港ニ於ケ

ルカ如キ例ナキニアラス乃チ前者ニアリテハ商業會議所ノ施設ニ係リ後者ハ政府ノ直營ニ屬セリ
 鐵道ノ布設及ヒ營業ニ要スル費用ハ停車場港間ノ運賃ヲ以テ之ニ充ツルモノナリト雖モ亦ク場合ニ依リテハ(ツンクアク港)所(ノ如キ)有者ニ於テ一切之ヲ徵セス以テ水運ノ發達ヲ獎勵スルモノアリ
 商業會議所ハ政府ノ許可ヲ得テ港内ノ設備ヲ施シ上屋、起重機倉庫等ヨリ以テ繫船、修船等ニ要スル各般ノ施設ニ任スルコトアリ
 此場合ニ於テハ三十年乃至六十年ヲ以テ期限トシ期滿ツルトキハ其設備ノ全部ヲ舉ケテ政府ノ所有ニ歸セシムルモノナリ而テ此等工事ノ施設及工費ノ出納ニ關シテハ總テ政府ノ監督ヲ受クルモノトス

營業ノ収支

商業會議所ハ前記ノ設備ヲ運用シテ使用料ヲ徵スルモノニシテ

專用ノ設備

若シ収支相償ハサルトキハ更ニ噸稅及ヒ一般關係ノ營業者ニ附課スルコトヲ得ルモノトス
 一般ノ使用ニ供スル設備ノ外個人若ハ會社ニ於テ港内ノ一部ニ自己専用ノ起重機倉庫若ハ上屋等施設ノ許可ヲ得ルコトアリ此場合ニ於テハ地料ヲ納付スヘキ規定アルヲ以テ其實際ニ於テハ多ク徵収セサルニモ拘ハラス此等ノ施設ヲ爲スモノ其力爲メ比較的少シ

佛國諸港ノ不備

以上述フル所ノ佛國諸港ニ於ケル設備ノ方法乃チ政府、商業會議所及ヒ會社個人等ニ於テ同時ニ施設及ヒ其運用ニ關與セシムルコトハ完全ナル計畫ヲ施スニ一大妨障ナリ爲メニ航運事業ノ發達ヲ妨クルコト鮮少ナラス是レ乃チ佛國ノ諸港ニ於ケル從來ノ狀態タリ漸ヤク輓近商業會議所ノ率先シテ專ラ該事業ニ當ルニ

蘭白

至リ多少弊害ヲ排除シテ進運ノ域ニ向ヘリ
 蘭白ノ二國ニ在リテハ運輸ニ供スル河川ノ維持ハ政府ノ事業ト
 シ船渠及ヒ内港ハ市ニ屬セシメタリ而シテ繫船岸ニ於ケル鐵道
 ハ鐵道局ノ施設ニ係ハルモノ多シ例令ハアンベルス港ニ在リテ
 ハ船渠ハ市ニ於テ施設シエスコ―河ノ繫船岸ハ政府ノ事業トナ
 シ而シテ此兩者ニ屬スル諸般ノ設備ニ至リテハ特ニ法律ニ據リ
 テ市ノ負擔ニ屬セシメタリ水閘及ヒ渠口ハ政府及ヒ市ニ於テ共
 同負擔トス

英國

英國ニ在リテハ商港ノ修築及ヒ維持ハ殆ント港務會議所(ハアボ
 アボウド)ノ事業ニ屬シ又市鐵道會社若ハ汽船會社商社個人等ニ
 屬セルモノアリ而シテ政府ハ專ラ避難郵便漁業ニ關スル港灣ノ
 修築ニノミ關與ス例之ドーバー、ポートランド、ホリー―ベット、ハー

ウイチ、ラムスゲート、ピーターヘッド、キングスタウン、ハウス等ノ如
 キ是ナリ其他ハ管新ニ規畫經營スルニ當リ若ハ工事費公債募集
 等ニ際シテ之ヲ許否スルニ止マレリ
 築港事業ノ分担前述ノ如クナルヲ以テ爾來該事業ノ爲メ國費ヲ
 投セルコト十九世紀中ニ於テ約一億圓ニ過キスト雖モ公共團體及
 地方ノ負擔ニ屬スルモノハ實ニ十一億圓ニ達セリ而シテ其大半
 ハ陸上設備ノ爲メニ投資セルモノナリ
 グリムシー、ハル、ミッドルスバラ、フックストーン、ハーツルプール、
 ヤロー船渠ガーストン、バロー、ペナース其他ノ諸港ハ鐵道會社及
 ヒ汽船會社ノ專有ニ屬スルモノナリ然レトモ其弊害ノ免レサル
 モノアルヲ以テ將來ニ對シテハ會社若ハ個人ノ專有ニ供スヘキ
 港ノ施設ハ許可セサルモノ、如シ

ロンドン、ハル、サザンプトン、カーチフ、ニウボートノ如キ要港ニ於ケル船渠(乃チ港)ハ數個ノ會社ニ屬シ個人ノ專有スルモノ(グラントン、アイブ、ロサン)若ハ市ニ屬スルモノ(ロイマウ、ボイツマウス、ブリストル等ノ如キ)等ハ皆商業上比較的の必要ナラサル港ナリ

前記港務會議所ハ港ノ新設及ヒ之ニ屬スル諸般ノ設備ヲ完タカラシメンカ爲メニ設置セルモノニシテ英國著名ノ諸港ニ在リテハ既ニ之ニ依リテ大ナル施設ヲ全フセリ殊ニリバーブル、グラスゴウ、ニウカッスル、サンダーランド、グリーノック、アバーチーン、リース等ハ其重モナルモノナリ

此等ノ港務會議所ハ各區若ハ關係營業者團體ノ代表者ヨリ成立スルモノニシテ其會長ニハ市長ヲ以テ之ニ充ツル場合多シ

北米合衆國ニ於テハ商港ニ對シ一ノ拘束ナク最モ自由ニシテ寧

北米合衆國

ロ殆ント放任ノ状態ヲ呈シ港内諸般ノ設備ノ如キ地方ノ必要ニ應シテ沿岸近接ノ土地所有者ニ依リテ施設セラル、モノ多ク現ニ新約克市ノ如キ其周圍ヲ爲セル河岸ノ地ヲ収用シテ水陸運輸ノ接續ニ供スヘキ各種ノ設備ヲ爲スノ權利ヲ附與セラレタリ然レ、凡輓近漸ク中央政府ニ於テ運輸路殊ニ運河ノ施設ニ關與スルニ至レリト雖、凡從來ニ在リテハ單ニ航路ノ自由ト安全ヲ保スルニ足ルヘキ施設ノ外他事業ニ及ハサリシナリ故ニ政府ノ施設ニ係ル重モナル事業ハ護岸、防波堤、導水堤、及ヒ河口河身ノ改修、港灣ノ浚渫、航路標識ノ新設及ヒ維持ニ止マレリ

我國ニ在リテハ海面ハ總テ國有ニ屬シ港灣ノ修築及ヒ維持ハ政府ノ事業ニ屬シ内務省ノ所轄タリ而レトモ地方民衆ノ率先シテ築港若ハ港灣改良ノ工事ヲ企圖スルニ際シテハ其工費ノ幾部分

本邦

ヲ國庫ニ於テ補給シ又ハ相當ノ補助ヲ與ヘテ其成功ヲ期セシムルコトアルト雖モ而カモ其竣成シタル防波堤、碇繫地及ヒ航路等ノ如キ一船ノ航運ニ屬スルモノハ摠テ官有ニ歸セシムルヲ常トス

從來我邦ノ港灣ハ殆ント放任ノ状態ニシテ人工ヲ加フルモノ極メテ尠ク此種事業ハ痿微シテ振ハサルシカ近年ニ至リテ漸ク必要ニ促カサレテ改修工事ニ着手スルモノ頻々タルニ至レリ左ニ明治十一年以降ニ係ル政府ニ於テ直接經營ヲ施シ若ハ補助ヲ與ヘテ施設セシ築港事業ノ工種及ヒ工費ヲ掲クヘシ

港名	工種	起工年月	國庫金	地方費	町村費	私費	決算總額
坂井	突堤	明治十一年 全十五年	一四三、三〇九	三、〇〇〇	—	八二、四七五	三二八、七九四

野 蒜	長 崎	三 角	宇 品	浦 戸	横 濱	若 松	函 館	小 樽	大 坂	長 崎
突堤、運河、開門	浚渫防砂	埋立、棧橋	埋立、堤防	浚渫、突堤	防波堤、浚渫、導水堤	浚渫埋築、防波堤	浚渫埋築、防波堤	防波堤	防波堤、浚渫、埋築、船岸	浚渫、埋築
全十一年 全十六年	全十五年 全廿三年	全二十年	全十七年 全廿三年	全十九年 全廿七年	全廿二年 全廿九年	工事中	工事中	工事中	工事中	工事中
六八三、一三三	一七一、八四八	三九、四六五	—	三、二〇〇	二、三四六七〇	—	二〇〇、〇〇〇	—	—	—
—	四〇、三三九	六七、六〇〇	—	一四、二二六	—	—	—	—	—	—
—	七三、七五四	—	—	—	—	—	四六一、六五六	—	—	—
—	七、〇四八	—	—	一四五三	—	—	—	—	—	—
六八三、一三三	二九二、八七九	一〇七、〇八九	三〇〇、一四三	五一、八四八	二、三四六一八七	—	六六一、六五六	—	—	—

熱田	導水堤浚渫	工事中
横濱	浚渫岸壁	工事中

行政ノ督監

佛國ニ於テハ商港ノ運用ハ土木監監署技監及ヒ港務官ノ監督ノ下ニ在リテ殊ニ技監ハ摠テノ新設及ヒ維持ニ關スル事業ヲ監督シ港内ノ取締ニ關スル方案ヲ立テ及ヒ其實行ヲ認ムルノ責ニ任シ又商業會議所ノ作業及ヒ豫算ノ編制等ニ參與スルノ權ヲ有ス而シテ此等ノ職務ヲ執行スルニ當リテハ港務官ヲシテ補助タラシムルモノトス

港務官ノ職責

港務官ハ出入船舶ノ進退及ヒ碇繫地ヲ指定シ又港内ヲ監視シテ航路ノ安全ト岸壁及ヒ各種ノ設備並ニ一般ノ取締ニ從事ス又火

技監ノ職責

藥ノ積卸ヲ監視シ遭難殊ニ船舶ニ火災ノ發スルニ際シテ救援ニ從事シ荷足ノ投棄地ヲ指定スルコト等其重モノナルモノナリ港務官ハ又港内ノ維持、航路及ヒ錨泊地ノ標識其他港内ノ施設ニ關スル事項ヲ技監ニ報告スルモノトス而シテ其事項ニ依リ工部、海軍及ヒ内務ノ三省ノ命ヲ承ク然レモ其關係ノ最モ多キハ工部省ニシテ技監ノ命ヲ承ケテ職務ニ從事スルコト多ク其進退賞罰ノ如キ自然技監ノ申告ニ基クモノトス

土木監督署技監ノ其關係港灣ニ對スル任務タル頗ル重大ナルモノニシテ獨リ工事ノ施設ニ止マラス商機ヲ察シ能ク事情ニ通曉シテ一般ノ利害ヲ攷究シ其利益ヲ増進スルコトヲ努メサル可カラズ殊ニ現時ノ如ク各港ノ競争場裏ニアリテ能ク優勢ヲ保タンカ爲メニハ港灣ノ完備ヲ期セサル可カラズ其技能ニ待ツコト最

モ多シトス

港則

商港ハ歐洲各國共ニ港則ヲ設ケテ之カ取締ヲ爲スモノニシテ我邦ニ於テモ三十一年(卅)勅令第三百三十九號ヲ以テ制定發布シ爾來横濱、神戸、長崎ノ三港ニ實施セリ其條章大略歐洲諸港ノ港則ト異ナラサルヲ以テ左ニ其要項ノミヲ記掲スヘシ

- 一 港ノ經界
- 一 船舶出入ノ際ニ於ケル信號
- 一 船舶出入ノ届
- 一 着港船舶ニ於ケル自由交通ノ許可
- 一 入港船舶ニ對スル港長ノ指揮

- 一 港長ノ服裝
- 一 航路ノ妨害
- 一 船燈ノ掲方
- 一 暴風雨ノ警報アル場合ニ於ケル心得方
- 一 爆發物ヲ搭載セル船舶ノ心得方
- 一 休繋又クハ修繕中ノ船舶ノ心得
- 一 船舶火災ノ際ニ於ケル心得
- 一 流行病地ヨリ來レル船舶入港ノ際ニ於ケル心得
- 一 死体荷足灰燼塵芥等ノ處分
- 一 出港船舶ノ心得
- 一 難破物ノ取除キ
- 一 繫船浮標ノ使用料

一 燈船浮標立標ニ對スル心得

一 罰則

一 港長

一 軍艦碇繫地ノ指定

港 稅

我國ノ港灣ニア於テハ從來一二ノ小港ヲ除クノ外ハ出入自由ニシテ何等ノ稅ヲ課セラル、コトナク又使用料ヲ徵セラルヘキ設備極メテ少ナシト雖モ歐洲ノ諸港ニ在リテハ港及ヒ其設備ヲ使用スル船舶ハ之ニ對スル諸種ノ稅金及使用料ヲ徵收セラル、モノニシテ其率及ヒ徵收ノ方法ニ至リテハ各地之ヲ異ニスルモノナリ

佛國ノ港稅

佛國ニ在リテハ稅金及ヒ手數料ヲ分チテ數種ト爲ス乃チ水先料、衛生稅、救難稅、岸壁稅、出入稅、出港免狀稅、航海免狀稅、取引手數料等是ナリ

使用料ハ曳船、上屋、起重機、修船渠等ニ關スルモノ其重モナルモノナリ

水先料

水先料ハ水先案内者ノ所得ニシテ佛國諸港ニ出入スル船舶中規定ノ噸數ニ達スルモノヨリ徵收スルモノナリ

水先業ハ海軍省ノ所轄ニ屬シ其料額亦タ同省ノ制定スル所ニシテ各地同シカラス其率大略距離及ヒ船舶ノ噸數若ハ吃水等ニ基キ定ムルモノニシテ屢々鉅額ニ達シ航海者ノ困難トスル所ナリ故ニマルセーユ港ノ如キハ常ニ該港ニ出入スル船舶ニアリテハ船長自ラ水先ノ免狀ヲ有スルモノ多シ

衛生稅

衛生稅ハ檢疫消毒等ノ費用ニ宛ツルモノニシテ船舶及ヒ乘客若クハ船舶ニノミ課スルモノナリ而シテ入港スル船舶ハ摠テ檢疫ヲ受クルニ依リ(佛國沿海航行ノ船舶ヲ除ク)一噸ニ付二錢(〇、〇五法)乃至十錢ヲ徵ス又其昇降スル船客ニ對シテハ歐ノ内外ニ依リテ二十錢乃至四十錢ヲ徵シ若シ消毒ヲ要スル場合ニハ停船中一日一噸ニ付一錢二厘ヲ徵シ更ニ消毒中ノ費用ヲ船客ヨリ徵収ス

救難稅

救難稅ハ佛國二三ノ港ニ於テ難破救助ノ設備ヲ維持スル爲メ商業會議所ニ於テ入港船舶ヨリ徵収スルモノナリ乃チル、ハーブル港ニ在リテハ一噸ニ付一錢乃至二錢ルーアン港ニ在リテハ六厘乃至六錢ヲ徵収ス而レモ其他ノ重ナル港灣ニ在リテハ一切之ヲ課稅スルコトナシ

岸壁稅

岸壁稅ハ岸壁ニ於ケル繫船料ニ異ナラスシテ元來單ニ船舶ノ噸

數ニ依リテ一定ノ額ヲ徵収シタレトモ其不當ナルヲ以テ近時之ヲ改メテ佛國諸港ニ在リテハ海外ノ諸港(アルジエリヲ除ク)ヨリスル船舶ハ左ノ金額ヲ課稅徵収ス

一噸(登簿噸數)ニ對スル課稅

四拾錢(一法) 積ミ若ハ卸セル物貨ノ噸數登簿噸數ノ半以上ニ達スルハ

貳拾錢 全上 其半以内ノトキ

拾錢 全上 其四分ノ一以内ノトキ

四錢 全上 其十分ノ一以内ノトキ

一港内ニ於テ數個所ニ繫船スルトキハ其各所ニ於テ前記ノ料額ヲ徵スル雖モ一航海ニ於テ收納スヘキ額ハ遠洋航海ノトキハ一噸四拾錢近海航行ナレハ二拾錢ヲ超過スヘカラス
積卸物貨ノ計算中人畜ニ對シテハ一人若ハ大畜一頭ハ一噸トシ

出入税

小畜ハ一噸ノ四分ノ一トス

出入税ハ港内ノ改良及ヒ設備ニ要シタル費用ヲ消却スル爲メ徴収スルモノニシテ商業會議所若ハ市ニ屬スルモノトス而シテ其税率最高額ハ法律ヲ以テ制限セリ乃チ左ノ如シ

登簿噸數一噸ニ付 四拾錢(一法)

物貨一噸ニ付 貳拾錢

船客一人ニ付 四拾錢

而シテ諸港ニ在リテハ該範圍内ニ於テ各其税率ヲ定メ之ヲ實行セリ

出港免狀料

出港免狀料ハ佛國ノ諸港ヨリ出港スル船舶ニ對シ交付スル出港免狀ノ手数料ニシテ其額ハ佛國船ハ其大小ニ依リテ四拾八錢乃至貳圓八拾八錢トシ外國船ハ四拾八錢トス又之ニ附帶シテ荷物

取引手數料

揚卸免狀ヲ要スル場合ニ在リテハ貳拾四錢ヲ徴収ス

取引手數料ハ地方廳ノ訓令ヲ以テ之ヲ定ムルモノニシテ各地之ヲ異ニスル雖モ通常積荷ハ其量ニ依リ船舶ハ噸數ト種別トニ依リテ定ムルモノナリ

使用料

使用料ハ港内諸設備ノ使用ニ對シテ徴収スルモノナリ

曳船料

曳船料ハ一ノ營業ニ屬シ通常慣習ニ依リ定メタル使用料ヲ徴スルモノニシテ各地之ヲ異ニスチープ及ヒヅンケアクニ在リテハ其料額一噸ニ付六錢乃至貳拾錢(距離ニ依ル)ニシテ積荷ナキ船舶ハ之ヲ半減ス又船渠内ニ於テ移動ヲ爲ス場合ノ曳船料ハ一噸ニ付キ二錢乃至四錢トス

上屋料

上屋ノ使用料ハ一ケ年ヲ期シテ使用スルモノニ對スル料額ノ外ハ頗ル複雑ニシテ且ツ各地之ヲ異ニセリ其一ケ年期ノ使用料ハ

マルセーユ港ニ於テハ一平方米ニ付四圓ル、ハーブル港ニ在リテハ貳圓ヲ要セリ

一時ノ使用ニ止マルモノニ在リテハ物貨ノ量ニ依リテ徵スルモノアリ又ハ使用ノ面積ニ依ルモノ若ハ船舶ノ噸數及ヒ滯繋日數ニ依ルモノアリ左ニ其二三ノ例ヲ舉クヘシ

カレー、ヅンケアクノ二港ニ在リテハ其使用料額概ネ左ノ如シ

物貨一噸五日間 貳錢

次ノ五日間ハ一日ニ付 四厘

次ノ十日間ハ一日ニ付 八厘

次ノ十日間ハ一日ニ付 壹錢二厘

欠ノ三十日間ハ一日ニ付 九厘餘

チーブニ於テハ物貨ノ種類ニ依リ前記ノ料額ヲ異ニス

ルハーブル港ニ於テハ船舶ノ噸數ニ準セリ其一日ニ對スル料額左ノ如シ

上屋ノ奥行(巾)		船舶種別	
		汽船	帆船
四十五米以下	三錢六厘	三	錢
三十米乃至四十五米	三錢二厘	二	錢六厘
三十米以下	貳錢八厘	二	錢

該使用料ハ積荷ノ多寡ニ依リテ割引ヲ爲スト雖モ物貨ヲ七十二時間以内ニ引キ取ラサルトキハ左ノ重料ヲ課セラル

物貨一噸ニ付五日間ハ一日ニ付 二錢

全 上 次ノ五日間ハ一日ニ付 四錢

全 上 次ノ十日間ハ一日ニ付 八錢

起重機ノ使用料ハ使用ノ時間數ニ準シテ之ヲ徵収スルヲ常トス

起重機使用料

左ニ其二三ノ例ヲ舉ク

港名	起重機ノ種類	扛力	半日間ノ料額
カレ	水壓	一、〇五 ^噸	六、〇〇
全		二、〇五	八、〇〇
全		五、〇〇	一〇、〇〇
全		一〇、〇〇	三六、〇〇
全		二〇、〇〇	三八、〇〇
全		四〇、〇〇	四〇、〇〇
マルセーユ		一、二五	六、〇〇
全		一、三〇	八、〇〇
全		三、〇〇	八、〇〇

全	二五、〇〇	二七、〇〇
全	七五、〇〇	三六、〇〇
全	一二〇、〇〇	五四、〇〇

アル、ハ
ブル、ハ
於ケル諸
港ニ
於ケル諸
税

本表ニ掲タルモノ、外一時間ニ對スル料額アリ又規定ノ時間外
及ヒ夜間ニ在リテハ割増ヲ爲ルモノトス
以上ハ是レ船舶ニ對スル諸係費ノ大要ヲ示セシモノナリ更ニル
ハール港ニ於ケル實例ヲ掲記シ其實況ヲ識ルノ便ニ供スヘシ
今茲ニ一汽船ノ登簿噸數二千〇五十三噸ヲ有スルアリ米國ヨリ
雜貨三千六百〇一噸ヲ積載シテル、ハール港ニ入港シタリ依テ
其支拂ヘキ諸費ヲ計算スルニ左ノ如シ

岸壁税

八二二、二〇〇

港 稅	三二八、五〇〇
衛 生 稅	一二三、一八〇
救 難 稅	四一、〇六〇
入 港 水 先 料	一四四、五二〇
出 港 水 先 料	五七、八二〇
取 引 手 數 料 (三、六〇一噸)	四四四、〇〇〇
移 船 料	三二、一六〇
荷 揚 費	六五〇、〇〇〇
雜 費	九七、〇八〇
合 計	二、七三九、五二〇

又帆船ノ噸數二千二百五十八噸ナルモノ米國ヨリ鉛塊三千六百三十五噸ヲ積載シテ入港ス其出港ニ至マデノ費用ハ左ノ如シ

岸 壁 稅	九〇三、二〇〇
港 稅	一八〇、六六〇
衛 生 稅	一三五、四八〇
救 難 稅	四五、一六〇
入 港 水 先 料	三五七、五八〇
出 港 水 先 料	八三、一〇〇
曳 船 料 (入 港)	六〇〇、〇〇〇
全 (出 港)	五〇、〇〇〇
取 引 手 數 料 (三、六三、三五噸)	三五四、八〇〇
移 船 料	三二、一六〇
積 揚 費	一、八〇〇、〇〇〇
荷 足 積 入 費	四〇〇、〇〇〇

雜費

一三九三八〇

合計

五〇八一五二〇

乃チ汽船ハ一噸ニ付壹圓三拾三錢ヲ要シ帆船ハ貳圓拾五錢ヲ要セリ

蘭白獨ノ港稅

蘭、白、獨ノ諸港ニ於ケル税金ハ略々佛國ニ於ケルモノト相同シク英國ニ在リテハ課稅ノ方法頗ル複雑セリ乃チ船舶ノ噸數及ヒ物貨ノ量ニ對シ同時ニ課稅シ而シテ其率ハ船舶ノ繫留地及ヒ物貨ノ質ニ依リテ大ニ差等アリ

英國ノ港稅

リバープール港ニ在リテハ燈臺、錨泊地、繫船岸及ヒ船渠等ニ對スル課稅アリ又出入物貨ニ對スルモノアリテ其船舶ノ噸數ニ據リテ課スル金額ハ比較的僅少ニシテ過半ハ物貨ニ係ハルモノナリ英國ニ於ケル近海航行ノ船舶ハ通常平均一噸ニ付三拾錢遠洋航

國稅ニ關スル件

路ノモノハ八拾八錢ヲ徵セリ物貨ハ其種別及ビ產地ニ依リテ一噸ニ付四錢乃至二圓五十錢ヲ課セリ

要スルニ港稅ノ制定ハ能ク各地ノ狀況ニ適應セシメサル可ラス一般國稅ニ關シテハ其附課方法如何ハ商港運用ノ上ニ尠ナカラサル關係ヲ有シ例令ハ佛國ニ於ケル如ク各種ノ物貨ニ課稅スルニ反シ英國ニ於テハ僅々數種ノ品目ニ止マリ其及ホス所積卸物貨ノ取扱ヲ異ニシ亦課稅ノ多寡ニ至リテモ重課稅品ハ輕課品ヨリ檢査及扱ニ多クノ手數ヲ要シ自然諸般ノ設備ニ異同ヲ生スルコト尠ナカラス

保稅倉庫

輸入稅ヲ課スヘキ物貨ハ通常之ヲ所謂保稅倉庫ニ入レ其取出ニ際シテ納稅セシメ以テ金利ノ損失ヲ免カレシムルノミナラス更ニ海外ニ輸送スルモノニ對シテハ不用ノ手數ヲ省クモノトス

自由港

商港ノ一種若ハ其一部ニシテ自由貿易港(又ハ單ニ自由港トモ云フ)アリ其内ニ於テハ輸入税ヲ徵收セスシテ物貨ノ積卸ヲ許スモノニシテ元ト歐洲諸邦ニ於テ廣ク之ヲ設ケタリト雖モ爾來前記保税倉庫ノ設置ニヨリ大ニ其用ヲ減ジ今日ニ至リ尙ホ其制ヲ存スルモノハ歐洲ニアリテハハンブルダ、ブレメン、ゲリーク、コツペン、ハーゲン等東亞ニアリテハシンガポ、ホンコン等ハ其重ナルモノナリ

築港卷之三 終

明治卅三年二月十三日印刷
 同 卅五年二月十六日發行
 同 卅五年十月十六日訂正印刷
 同 卅五年十月十九日再版發行

定價金壹圓

著者兼發行者 廣井勇

印刷者 東京市京橋區弓町十三番地 松本義弘

印刷所 同所(電話新橋一一四八) 績文舍

發行所 東京市京橋區彌左衛門町一番地 工學院

東京市日本橋區通三丁目十四番地

發賣所 丸善商社



82
42A

終

